

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学部 3年

参加プログラム:シェフィールド大学サマープログラム(理系コース) 派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職

派遣先大学の概要

ロンドンから鉄道で約2時間半のシェフィールド市に位置し、英国内の大規模研究型大学で構成されるラッセルグループの一員です。ノーベル賞受賞者を5人輩出しています。

参加した動機

留学を思い立った一番の理由は英語を学ぶことが好きだからです。今までは読み書き中心の input ばかりで output をする機会がなかったので、実際に海外で interactive な講義を受けてみたいと思ったことがきっかけです。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出する書類がたくさんあるので、締め切りを確認して早めに提出すると慌てないですみます。特に、出発が試験期間の直後だったので、時間があるときにどんどん進めた方がいいです。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

入国審査のときに student visa を取得します。帰りの航空券とシェフィールド大学の入学許可証を提示すれば取得できました。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行っていません。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協が薦める損保ジャパンの海外旅行保険に加入しました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位取得がなかったので、手続きは特に行っていません。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の英語レベルは TOEIC760 でした。語学学習としては、本郷キャンパスで行われる SEL で英会話教室に通い、通学中に BBC などの Podcast を聴いていました。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

コンセントの型が日本と違うので変換プラグが必要です。IC レコーダーがあると、講義を録音して繰り返し聴けるので良いと思います。また、放課後にスポーツのアクティビティがあるので、運動できる服装を持参することをおすすめします。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前は English Skill のクラス(90分×2コマ)、午後は文理に分かれて、レクチャーとその内容に関する予習・復習の授業(60分×2コマ)でした。

English Skill はプログラム初日のクラス分けテストでクラスが決まり、自分のクラスでは教科書やプリントを使いながらリスニング、スピーキング、リーディング、文法を総合的に行いました。また、2コマ使ってシェフィールド市の聖堂や博物館の見学もしました。予習は特に必要ありませんでしたが、宿題が出されることはありました。

午後は、予習授業、レクチャー、復習授業のサイクルで進みました。予習授業でレクチャーの内容に関する単語の確認やノートの取り方を教わり、復習授業ではレクチャーの内容の確認やディスカッション、スピーキングを鍛えるゲームなどを行いました。

② 学習・研究面でのアドバイス

レクチャーの先生はナチュラルスピードで話すので内容を理解するのに苦労しました。IC レコーダーで録音して授業後に聞き直せるようにすると良いと思います。また、わからないことは遠慮せずに質問した方がいいです。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

English Skill のクラスでは様々な国から来ている生徒がいて、英語になまりがあり聞き取るのに苦労しました。クラスの約半分は日本人だったので積極的に外国人の学生と話すようにしました。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学から指定されている The Edge という学校の寮に朝夕食付で宿泊しました。タオルやシャンプー・ボディソープがあり、部屋はきれいで快適でした。共用スペースには冷蔵庫や電子レンジ、アイロンもありました。ランドリーは各自で洗剤を入れ、支払いがクレジットカードで少し面倒でしたが、台数は十分にありました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

1日の気温差が大きく、朝と夜はパーカー、昼は半袖で過ごせました。宿舎から授業が行われる建物までは徒歩40分程度かかり、バスを使うと15分ほどで片道1£でした。寮の夕食は17時から18時までなので授業が終わってすぐに帰るか、放課後にアクティビティがある場合は外食しました。コンビニは宿舎から徒歩10分ほどのところにありました。お金は現金とクレジットカードを持ち、安全のため小銭入れと財布に分散しました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シェフィールドはイギリスの中で治安が良いと言われ、留学中に特にトラブルはありませんでした。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空運賃28万円、プログラム料(授業料、宿泊費)1040£、その他(食費、交通費、娯楽費等)400£程度

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金8万円。プログラムの募集要項に説明がありました。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

放課後に毎日アクティビティが行われ、内容は教室のポスターで確認できました。サッカーやバドミントン、スケートなどのスポーツや、飲食をしながら会話やゲームをするものもありました。土日には市外に観光するアクティビティがあり、Bakewell と Castleton に行きました。日曜は友達とリバプールに観光しました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラムの期間が短いためサポートを受ける機会はなかったが、配布されたパンフレットにサポートに関することが詳しく書いてありました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

24時間開いている図書館、カフェ、学内 Wi-fi、PC など充実していました。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私がプログラムに参加した目的は、海外の文化を体験することで国際的な視野を広げること、海外の講義体験を通じて現時点での自分の英語力を知り向上させること、長期留学に向けた準備の3つでした。プログラムの期間は2週間と短かったですが、イギリスの文化と留学生活の体験ができて満足しています。特に、アクティビティを通じて海外の学生に自分から話しかけて交流することで、言葉の壁を乗り越えて成長できたと感じています。

プログラムを通して感じた課題としては、ナチュラルスピードで話す講義を理解することが難しく、リスニング力が不足していると感じました。2週間の間に大幅に向上させることは出来ませんが、自分のレベルが確認できて今後の英語学習の良いモチベーションになりました。

② 参加後の予定

TOEFL のスコアを取り、大学院で1学期か1年間の長期留学をしたいと思います。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2週間と短い期間ですが、授業やアクティビティで積極的に海外の学生と交流することで充実した留学になると思います。また、休日やプログラム終了後にロンドンなどに観光することもできるので貴重な体験ができます。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

イギリスの観光ガイドブック(「地球の歩き方」など)

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部言語文化学科英語英米文学専修 4年

参加プログラム: 2014年第2回奨学金付き夏季短期留学プログラム

派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:新聞) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イングランド中部のサウス・ヨークシャー州シェフィールドに位置する国立の総合大学。政治学や化学分野の研究の評価が高い。

学生の人種の多様性は非常に高く、アジア系、特に中国人が多い印象。中東系も多い。

Student's Union は全英でトップレベルの評価を受けている。

参加した動機

新聞記者として働くにあたり、社費留学や海外取材に備えて留学体験を積んでおきたいと考えたため。

イギリスの大学でのプログラムを選んだ理由は、歴史や文化、政治体制に興味があり、また自分の専門との親和性が高かったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出期日などに気をつけるように。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

Student Visa なので特に申請は不要であった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

必要だと思った医薬品は持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯の海外旅行保険に加入していた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特別な手続きなどはなく、研究室にプログラムのことについて連絡した程度であった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL 自体はプログラム参加の下限に近いレベルだったが、研究室で積極的に外国人教授と話すなどして準備していた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

服装などは現地の気候を調べて考えて持っていくべき。

またプログラムに直接関係あることではないが、飛行機に10時間以上乗る際は、コンタクトをつけている人は機内持ち込みができる大きさのコンビニで売っている洗浄液を持っていった方がよい。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

授業は午前中がELTCという英語学習のクラスで、午後が主に人文・社会科学系と自然科学系に別れての授業だった。

ELTC は最初に TOEFL のリーディングとリスニングに似たテストを受けてクラス分けがされるため、クラスは東大生以外の人と混合であり、私のクラスは中国人・韓国人・サウジアラビア人・イタリア人などがいた。クラスにはマスターコースと並列して ELTC の授業を受けている人が多かったため、年齢層も幅広かった。このようにバックグラウンドが様々な人が集まっていたため、各国の文化・政治など色々な話を聞くことができ刺激的であった。

ELTC の授業は2人の教師が交代で受け持ち、普通のグラマーの他に、グラマーのためのテキストを読んだり、英語を使うミニゲーム(e.g. 議論における誤りを見つけるゲーム、新しいスポーツを考案するゲームなど)や発音練習のための簡単な英語劇などがあった。テキストの問題を解く際やミニゲームの時にはディスカッションをする機会が多く、英語で論理的に話す良い練習となった。

私は午後のクラスは人文・社会科学系であった。このクラスは東大生の中で専攻が人文・社会科学系である人たちが受け、倫理学・政治学・犯罪学・企業論など毎回違ったトピックをシェフィールド大の各分野の教授が講義した。また全ての回でトピックの準備と授業後のサポートを行ってくれるファシリテーターの先生と、学生のTAが4、5人いた。

トピックの準備ではそのトピックでよく使用される単語や言い回しなどの基礎知識についてファシリテーターから講義

があり、その後本題のトピックをその分野の教授が講義し、最後にサポートとして問題を再確認するディスカッションを行った。基本的にこれら3つの授業で1つのトピックを構成するが、授業は1日に2回なので1つのトピックを2日にわたって行っていた。

それぞれのトピックは興味深いものが多いが、かなり早くしゃべる講師もいるため完全に理解するには集中力がある。しかしこうしたリスニングの能力や、質問やディスカッションを通して培うスピーキングの能力などは、最初に比べて伸びを感じることができた。

②学習・研究面でのアドバイス

講師に対する質問やディスカッションでの発言を意識的に増やしたほうが良い。特に ELTC のクラスなどでは中国学生などは常に発言し続けているため、何も言わないと印象も薄くなるし、それに内容理解も不十分なものとなる。

日本人学生は発言が非常に少ない傾向にあるので、うっとうしいと思われるくらいに発言するくらいの意識で丁度良いと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

とにかくしゃべることだと思う。東大生は他国の学生と比較してもリーディングやグラマーの能力で劣ることはほとんどないし、ライティングもそれなりの能力があるので、後はスピーキングとリスニングである。

それにはやはり授業での発言を多くするのが最も効率的である。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

The Edge という、1人部屋の学生寮。シェフィールド駅からはタクシーで 10 分少々。しかし午前中の授業を行う ELTC までは徒歩で 40 分近く歩くことになる。バスを使っても10分程度しか縮まらない。

部屋は比較的広く快適だが、暖房器具が使えるか不明であり、朝晩は多少寒い。トイレシャワー一体型。また私は B 棟だったが、火災報知器が常に故障していて警報音が鳴り響くことが数回あった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

8 月の気温は日本の 10 月か 11 月くらいで、日が出ていないとかなり寒い。寮や大学周辺は自然豊かな場所。ELTC がある場所は治安が悪いらしい。バスはスチューデントカードを見せると1ポンド。私は歩きで行くことが多くあまり使用しなかった。食事は量が多く味は無味か濃いかで、あまり期待しない方がよい。店も一部のコンビニを除いては19時~20時には閉まってしまうので注意すべき。現金はクレジットから引き出しができる。クレジットは VISA はほぼ全てで使えた。Master はごくまれに使えない場所があった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

プログラム中は治安の問題は無かったが、終了後に London にいた時にホステルで iPhone を盗難された。プログラムと直接の関係はないものの、前後に観光する人は多いだろうから今後の参考になるよう詳しく書くことにする。

プログラム終了後、8月16日~8月19日まで London に滞在した。宿泊場所は Elephant & Castle という London 南東部の治安が悪いと言われている地域にある、Rest Up London というホステルであった。部屋は10人程度が2段ベッドで寝泊まりする相部屋で、私は入り口近くのベッドの上段に寝ていた。パソコンなどの貴重品はロッカーに預け、就寝時にベッドに置く荷物も体を挟んで通路と反対側に置き、盗難にはかなり気を付けてはいるつもりだった。

8月18日の朝 6:30 ごろ、バッグに入れていた iPhone のアラームで一度起床したが、いつの間にか iPhone を手に持ったまま寝てしまっていた。そして 7:20 ごろにもう一度起きると、周辺に iPhone は無く、下にも落ちていなかったため盗難に気付いた。下の段ではクロアチア人女性が寝ていたが、彼女も枕の下に入れていたにもかかわらず同じく iPhone を盗られていた。

電話をしても誰も出ることがなく、遠隔で iPhone の場所を探してもオフラインになっていたため、電源は切られたのであろう。

戻ってくる見込みはまず無いものの、保険申請のために必要なので、近くの警察署に行き Victim Care Card というカード状の書類を作成してもらった。

大部屋だとどんなに気をつけていても寝ているときなどは無防備になってしまうので、どれだけ宿泊料金が安くてもできるだけそういったホステルは避けるべきであろう。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費約 13 万円(その内奨学金 8 万円)、授業料等はシェフィールド大学からの援助により免除、食費・交通費・娯楽費など合わせて 8 万円ほど。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構(JASSO)「海外留学支援制度(短期派遣)奨学金」・80,000 円・プログラム参加の際に資料に奨学金の記載があったため申し込んだ。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ELTC で開催しているバドミントン・バスケットボール・サッカーなどの様々なアクティビティに参加した。週末は ELTC で Bakewell と Castleton へ行く trip があった。移動方法はバスで、半日で様々な観光をした。また別の週末に学生 3 人で York へ観光に行った。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ELTC では講師が個人面談を行い、学生に学習や生活の面で問題が無いか質問をし、そこであった要望に沿って授業を運営してくれていたのがサポート体制としては良かった。

また午後の授業は人文・社会科学系のクラスでは Trevor Astley というファシリテーターが英語やトピック全体に関して非常に良いサポートをしてくれたので、スムーズに学習することが出来た。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は共用 PC やプリンターがあるため、印刷物が必要な時に使用できる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

期間としては短いプログラムであったが、意識的に参加すればディスカッションや質問などでスピーキングの練習をする機会を多く持つことができたので、良い体験であった。

所感として、やはり日本の学生はおとなしすぎるのかなと思った。ELTC では中国人学生を筆頭に講師がしゃべってしようと構わず発言するスタイルで授業が進行するので、あまりおとなしいと授業においていかれているように見えてしまう。またしゃべる機会も減ってしまうので、私はなるべく発言するようにした。

②参加後の予定

8月31日から9月28日まで Boston の語学学校で再び英語学習をする。

卒業後は新聞記者として働くことになるが、機会があれば再び会社の制度を使った留学をしたいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

まとまった時間が必要となる留学は、なかなか社会に出ると難しくなると思います。なのでこのような短いプログラムでも良いのでぜひ参加してみると良いと思います。

また参加するなら、受け身にならず意識的な参加をすべきです。いつもより発言を増やすなどをすると良い効果があると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

『地球の歩き方』など

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。メールに添付します。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム:シェフィールド大サマープログラム

派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

授業の行われていた校舎などの施設はとても自由な感じがしてまたきれいで勉強のしやすい環境が整っていました。卓球台や体育館、サッカーコートなどの施設も充実しており、昼食の休み時間や授業後にそのようなところへ出向くことにより多くの外国人との交流がうまれました。

参加した動機

もともと将来的に長期留学を検討しており、2週間の期間という短期留学に参加してみて、長期的な留学のイメージを描き、何が自分に足りないかを確認したいとおもい応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

大学側が手厚くサポートしてくださるため、参加手続きは基本的にその指示に従っていれば大丈夫だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人のパスポートは世界一安心といわれるように、日本人は信頼されているためか、ビザの申請も、出国の前には何も準備する必要はなく、ついでからの手続きも驚くほどすぐ終わりました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に健康診断や予防接種などはしませんでした。風邪薬などの常備薬は持っていったほうがよいと思います。(僕は実際に体調を崩しましたが持参した薬のおかげでもちこたえました)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協の保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。教務課で留学の許可に必要なはんこをもらったくらいです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

行きの飛行機などで単語帳などにかした一冊読んでいくとその後の授業での効率が上がると思いました。あとは日本人だけで絡まず自分より英語のできる外国人との交流を積極的にしようという覚悟がなにより必要だと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

常備薬、英単語帳、インスタントのお味噌汁、やる気と覚悟

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は語学の勉強、午後は英語のみの一般の講義を受けました。予習復習は特に課されませんでした。授業中のわからない単語はあとで時間をとってしっかり覚えるようにはしていました。

②学習・研究面でのアドバイス

授業中にしっかりやる気をもって、わからなくてもついていく姿勢があれば大丈夫だと思います。

③語学面での苦労・アドバイス等

使っている教材が難しかったので苦労しましたが、やるきでなんとかなりました。姿勢が大事だと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮で暮らしていました。同じく東大から派遣されたメンバーと同じ寮だったので、夜はみんなで集まるなどしていました。部屋自体はとてもきれいで、快適な寮生活を満喫することができました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は涼しく、時々雨も降りましたが、とても快適なものでした。寮の外には緑が広がっていて、散歩なども楽しむことができました。交通機関は主にバスを駆使していましたが、基本的にどこにいくにも徒歩で行ける距離にありました。食事に関しては、朝夜は寮のごはんでお昼はレストランにいたり学食で食べたりスーパーで買ったりしていました。キャッシュとクレジットカードの両方使っていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くなかったので警戒はそれほどしていませんでした。安心して暮らせていました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費は往復で 10 万円弱。授業費、教材代、寮の宿泊費、食費込みで 1080 ポンド。交通費はおよそ 10 ポンド。娯楽は基本的に大学の施設で遊べば無料。そのほかの施設ならば日本とさほど変わらないです。ただしスーパーなどの商品は日本と比べて割高で、物価は高いです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金 8 万円。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
サッカーやテニスを楽しんでいます。また読書を読むのが好きです。イベントに参加することも多いです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

手厚くサポートしていただきました。むしろ手厚すぎた感もあります。本当の留学はこれほど手厚いサポートはないと思うもで。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は 24 時間制で、いつでも好きな時に利用可能です。スポーツ施設はとても充実していました。食堂はあまり行くことはありませんでしたが、購買部は様々な文化の商品がうってあって楽しかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

2 週間という短い期間で本当に語学力がつくの？本格的な留学の準備になるの？と思う人は多いと思いますし、僕も参加する前はそう思っていました。短期留学で海外に言っているのにもかかわらずわざわざ同じ大学から派遣されたメンバーとばかり絡んでいる友人の写真を Facebook などによくみる、という方も多いのではないのでしょうか。私は今回、本格的な留学に“真剣に”備えてみようと思い、このプログラムに申し込み、強い覚悟を持って挑みました。実際に行ってみると戸惑いばかりで、やはり日本にとどまって想像するだけでは危なかったなど今覆い返すとしみじみ思います。クラス分けのテストがうまくいき、上位のクラスで授業を受けることができたのも大きかったです。周りに日本人(東大、他大問わず)は少なく、様々な国からきている方々(ほぼ欧米人)と話す機会に恵まれました。授業に妥協せず真剣に取り組んだ結果、語学力は大きく伸びたと思っています。また自分にいま何が足りないのか、長期留学に向けて何が必要なかが明確になった二週間になりましたので、私にとっては大変有益なものになりました。ようは取り組みようです。2 週間ぼーと過ごすのと全力でやるのは全然違うと思います。強い覚悟をもって参加することをお勧めします。

②参加後の予定

プログラム終了後、2 週間ほどイギリス、フランス、イタリアを旅行しました。学んだ英語を実際に使う機会に恵まれました。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷ったら応募することを勧めます。そして当選したらその 2 週間は全力でやってください。得るものはまちがいません。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部文科一類 2年

参加プログラム: ④SHEF

派遣先大学: The University of Sheffield

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学はイギリス国内でも有数の大学であり、教育や設備の水準は高い。また諸外国からの留学生を多く受け入れているため留学生への支援が整っている。シェフィールド市そのものが大学のキャンパスのようになっているため町全体の治安も良い。

参加した動機

英語を使う機会が減りつつあり、現段階での自分の英語がどれほど通用するのか、またそれを踏まえた上で英語学習の目標をいかに立てるべきかを考え直す機会にしたかったから。また、自分はこれまで一度も海外に行ったことがなかったため、学校のプログラムという形で渡航を経験したかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類提出などの手続きについては非常に親切に対応して貰えたが、できるだけ早め早めにこなすよう心掛けるべき。また、参加決定から出発まで時間がないので、パスポート発給などの手続きは早めに準備した方がよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

6か月の短期留学用のビザだったので、事前の準備は必要なかった。入国審査の際に求められたのはシェフィールド大学の受け入れ許可証のみだったが、念のため東京大学の在籍証明書も発行しておいた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特別の不安がなかったため特に何も行わなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

駒場の生協が進められた海外旅行傷害保険に加入した。生協に加盟していれば比較的安価で用いることのできる保険だったので助かった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

超短期だったので特に何も行わなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発の前日まで法学部の専門科目の試験があったため語学学習の準備にあまり時間を割くことができなかった。日本で購入した洋書を持参し、飛行機の中で目を通すくらいに留まってしまったが、もっとリスニングに重点を置いて準備すればよかったと後悔した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

二週間なのでそれほど心配はないと思うが、念のため日本食としてフリーズドライの味噌汁をいくつか持参した。保険として持っておくだけでも悪くないと思う。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

本プログラムでは午前中に語学の授業を、午後に教授陣による講義とその内容についてのフォローアップとディスカッション形式の授業を受けた。午前の語学の授業ではテキストやプリント教材を用いて文法や語彙の確認や少年犯罪やエネルギー問題などの社会問題について少人数でのディスカッションを行った。宿題は課されたがそれほど多くはなかった。午後の授業では語彙や前提知識の準備・講義・ディスカッションの三コマを一組として五組を受講した。哲学から犯罪学・世界市民論など幅広い分野の密度の濃い授業を受けられた他、難解な部分はシェフィールド大の生徒による補足などで理解を深めることができた。午前・午後を通じて日本ではなかなか経験できなかった英語でのディスカッションに重点を置き学習を行ったが、他者の意見を聞いて的確に発言する能力、また臨機応変に英語で対応する能力などを高めることができたように思う。

②学習・研究面でのアドバイス

宿題の量はクラスによって異なる。自分の所属していたクラスはそれほど量が多くなかったため、もう少し増やしてもらおうようお願いしてもよかったかもしれない。午後の授業で内容が分かりにくい部分はチューターとして授業に参加していたシェフィールド大学の生徒に尋ねれば噛み砕いて説明してもらえるのでそれほど心配する必要はない。

③語学面での苦労・アドバイス等

午前の授業での他国からの留学生と英語で種々の問題についてのディスカッションでは最初のうちはリスニングに苦労したが次第にそれぞれのくせに耳が慣れ、聴けるようになった。英語力の涵養のみならずそれらの問題に対する多角的な視点を得る上で大変大きな刺激になった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

プログラムで指定された寮で暮らした。宿舎は清潔で広く、また清掃が入るため快適に過ごせた。シャワールームは個室に備え付けられており、気兼ねなく使うことができた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

- ・八月のプログラムであったが、日本の十月ほどの気温であったため服装には気を付けた方がよい。
- ・大学周辺の店は早めに閉まってしまうことが多いが、スーパーは遅くまで開いているので必要なものは購入できる。
- ・交通機関はバスが多く走っており、シェフィールド大学の学生証を見せると基本的に1ポンドで乗れる。
- ・寮の食事は量が多いので、減らしてもらいたい場合はその旨を伝えなければならない。昼食は自分で用意せねばならなかったが、授業を受けた建物にカフェが付いており、そこで購入できた。
- ・お金は基本現金を用いたが、念のためいつもクレジットカードを携帯した。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

学園都市であるため治安はよかった。しかし念のため暗くなってからは一人で行動しないように気を付けた。幸いなことに健康で二週間過ごせたので医療機関などに頼ることはなかったが、睡眠は十分にとるようにした。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券を予約したのが遅かったため、また直行便を選んだため航空賃は往復で24万ほどかかった。授業料と寮費を合わせて1040ポンド(約18万円)、昼食代と交通費、娯楽費などで計5万円ほど使った。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラムで推奨されていたJASSOの奨学金を申請し、8万円を受け取る予定でいる。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

休日は友人とシェフィールドを見て回ったり、マンチェスターなどの近隣の都市を見て回ったり、またシェフィールド大学の提供しているプログラムに参加したりした。陽が長いので授業後も出かけることは可能であった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学習面については午前の授業では休み時間に面談が行われ、プログラムを通しての目標や不安な点などを話し合う機会が設けられた。また、午後の授業ではシェフィールド大学の生徒がチューターとして授業に参加しており、休み時間に交流することも可能であった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は24時間開放されており、PCも使えるようになっていた。印刷も可能であり、かなり助かった。Student Unionという生協のような施設があり、昼食などはそこで買った。また寮や学校、Student UnionではWi-fiが使用可能であり、かなり助かった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分は今回が初めての海外渡航であった。そのため様々な準備に戸惑ったが、全て自分でこなしたことで自信になったように思う。イギリスについて知識はあっても実際に訪れてみると違う点も多々あった。気候や食べ物の違いは思ったよりも大きく、慣れないうちは戸惑うこともあった。また公共交通機関の使い方も日本とは大きく異なっていたが、これも知識だけでは補えないことの一つであるように思う。

今回シェフィールド大学の学生とはあまり会話することができなかったが、代わりにアジア諸国からの留学生と話す機会を多く得た。東京大学ではPEAK生の受け入れも行ってはいるが、我々四月入学生との交流の機会はあまり多くない。これまで同質性の高い環境で生きてきた自分にとって、異なる環境、異なる国で育ってきた彼らと会話することは大きな刺激となった。

現在自分は国家公務員を志望しているが、国内のことを主に取り扱う省庁に入ったとしても、また公務員以外の職業に就いた場合であっても、このグローバル時代においては広い見聞と知識、理解を持たねばならないと気付かされた。これからも日本の政治や国内法などを中心に国家公務員になるための勉強を進めていくつもりであるが、それと同時に語学力やディスカッション能力、またそれらに限らないコミュニケーション能力全般も意識して身に付けねばならないと思った。また一国とはいえ外国で学習したことは、日本にいた間は意識しなかった日本の文化的風土について考え直す機会になった。実感をもって日本の政治や制度、その意味を深く理解するための一助となったように思う。その点でも非常に有意義な二週間であった。

国家公務員には修士取得のため海外の大学に留学できるシステムがあると知り、将来可能であればその制度を使って留学したいと考えている。その他の職場であっても留学する機会があれば、今回の経験を活かし参加したい。

②参加後の予定

学部での留学は考えていないが、就職後可能であれば留学したいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

多少なりとも不安はあると思うが、学部の中にこのようなプログラム参加することは貴重な経験になると考える。特に海外渡航の経験がない人にはぜひ参加するよう勧めたい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go!Global サイトに掲載されていた体験談を参考にした。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部

参加プログラム: サマープログラム

派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イングランド中部の都市シェフィールドにある大学。
英国国内の大規模研究型大学で構成されるラッセルグループの一員であり、過去に5人のノーベル賞受賞者を輩出している。
午前中に英語の授業を受けるELTCは少し離れたところにある。

参加した動機

動機は主に3つあった。1つ目は英語の能力を上げることであり、2つ目は多様な分野を学び、進路選択に生かすこと。3つ目は様々な人と交流し、今後の生活に生かすことである。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
本部国際交流課の指示に従えば問題はないと思う。ただ、今回は8月上旬の出発であり、準備などが試験と重なってしまったので、試験勉強、留学準備なども早くから準備したほうが、余裕が出たのではないと思う。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
イギリスへの6カ月以内の滞在であったので、事前のビザ申請の必要はなかったが、イギリスの入国審査時にstudent visaを申請する必要があった。パスポートに加え、入学証明書を提示するだけで十分だった。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
歯医者に行った。ただ、行ったのが出発直前だったのと、歯の掃除に時間がかかってしまったのとで、結局虫歯の治療ができずに出発することになってしまった。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
小田急トラベルの海外旅行保険に加入した。約1万4千円であった。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
試験の時期と重なることはなかったため、特に何もしていない。ただ、8月中旬提出のレポートを出発前に出す必要があった。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
TOEICは約800点であった。
出発前はリスニングの勉強をしていた。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

- ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中はELTCでの英語の授業(90分×2)。午後は東大生をみの理系、文系に分かれての講義(60分×2)であった。
午前中のクラスは一クラス13人くらいで、7割日本人という感じだった。授業では読解、リスニング、ディスカッション、プレゼンテーションの練習と、様々なことを行った。先生からお題を与えられて、それについてのディスカッション、または、読解やリスニングの解答や内容についてのディスカッションが多かった。予習、復習の必要は全くなかった。
午後のクラスは予習の講義、講義、復習の講義を一つのセットとして、合計5つセットを受けるといったものであった。予習の講義、復習の講義は1人の先生に加え、現地の3人の学生が参加し、東大生3人につき学生1人がつくという形で行われた。予習の講義の内容は、講義に関連する単語や知識の学習などだった。予習、復習の講義では各グループ内で話し合う機会が多く与えられた。実際の講義は難しい内容もあり、リスニング力だけではなく、予備知識がないと理解しにくいと思われる。
- ②学習・研究面でのアドバイス
前述したとおり、午後の講義の内容は予備知識がないと理解できない講義もあると思われるので、ある程度勉強しておいた方がいいかもしれない。
- ③語学面での苦勞・アドバイス等

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿舎はもともとプログラムに含まれていた The Edge という宿舎だった。部屋はきれいで快適であったが、浴槽がなかった。冷蔵庫や電子レンジ、ポットなどもつかえた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

約 2 週間のうち、雨が降ったのは2、3日であり、他の日はだいたい晴れていた。朝、夜は冷えていたので薄いジャケットなどを持っていくといいかもしれない。また、雨でぬれた場合に備えて靴を二足持っていくといいかもしれない。

宿舎からELTCや午後の講義が行われる場所までは徒歩で30、40分くらいかかったので、バスを使ってもいいかもしれない。バスは学生割引があった。

宿舎で朝食と夕食が出たので、その心配はせずにすんだのでよかった。ただ、味は日本人には少し合わないかもしれない。昼食は大学の近くに買う所がいくつかあったので、特に不便を感じなかった。宿舎の近くにも遅くまでやっているスーパーみたいなものがあったのでよかった。

クレジットカードは上限を超えてしまう可能性があるため、複数作る、上限をあげてもらうなどの対策をした方がいいかもしれない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特に危険を感じることはなかった。ただ、クレジットカードなどの貴重品などはセキュリティーポーチに入れるなどの工夫はしていた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:約 15 万円

プログラム料:1040 ポンド

食費+交通費+その他:3 万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO の奨学金で 8 万円受給した。シェフィールドサマープログラムの要綱に説明があった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

平日は毎日、ELTCの提供してくれるスポーツなどとアクティビティがあった。土日にもELTCの提供してくれる日帰り旅行のようなものがあった。

また、リヴァプールやマンチェスターが近いので自分で行くこともできた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

2 週間という短い期間だったので、特に利用することはなかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学の図書館などではPCやプリンタ、スキャナを使うことができ便利だった。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回のプログラムを通じて、英語に関しては、自分は何ができて何ができないのかがある程度ははっきりしたとともに、できることを怠っていた自分に気づかされた。このような短期留学をする以前に、自分でもっとできたはずのことをしなかったというのは大いに反省すべきであるし、これからの生活を改めたい。

また、ELTCやTAの学生の中には大学院からシェフィールド大学に入学しようとする人、または入学した人などがいたが、そういった人の話を聞いて、自分の将来を考え直すきっかけとなった。今までは漠然と東大の大学院に進むことしか考えていなかったが、もっと多様な生き方がある、ということに気づかされた。

さらに、他の東大生との交流から学んだことも多い。現地の学生との交流も含め、新たな人との交流は大事だと感じた。

ただ、午後の授業に関しては、理解できない部分が多く、十分役に立てることができず残念に思う。

②参加後の予定

大学院には進学するつもりだが、視野を狭めず、いろいろな可能性を考えていきたいと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

時間があるならば参加するのが良いと思う。何も考えずに参加しても得ることをあると思うし、具体的な目標を持って参加すれば、さらに多くのものを得られるのではないと思う。

ただ、英語学習だけを考えるならば、すべて英語学習のプログラムの方が、効果があるのかもしれない。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2014年 8月 27日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部理科二類2年

参加プログラム: SHEF サマースクール

派遣先大学: Sheffield University

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

ロンドンから列車で2時間半ほど離れた、シェフィールドという街にある。留学生によると、エンジニアリングと国際関係の研究で世界的に有名な。アジアからの留学生(特に中国)が非常に多く、シェフィールド大学で英語を学んだあと、そのまま修士課程に進む人も多いようだ。

参加した動機

入学してから周りに帰国子女が多いことや、大学のプログラムで外国に行った経験から、英語が話せることの重要性を強く感じていた。大学在学中に留学してみたいという考えがあったため、今回のプログラムは留学の準備にうってつけだと感じ、参加を決めた。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

シェフィールド大学のホームページで、個人情報登録したりプログラム費用を支払ったりするのがわかりにくいため、参加者同士で聞き合いながら進められるよう、連絡先を交換しておいた方がよい。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

入国審査のときに学生ビザを発行してもらうのだが、必要な書類はシェフィールド大学の入学許可証だけだった。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何もなかった。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

航空券をネットで予約したときに同時に加入したが、死亡保障がついておらず、後から国際交流課の人に死亡保障もつけるよう忠告された。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に何もなかった。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

テスト期間と重なっていたため、特に何もできなかった。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

長袖・長ズボン(思ったより寒かった)、スニーカー(宿舎から学校まで徒歩40分かかり、しかも坂道が多い)、クレジットカード(航空券をクレジットカードで買うとすぐに限度額いっぱいになってしまうので、2枚あると良いかもしれない)。また、シェフィールドではバスやタクシーなどの交通機関を除き、たいいていの店で少額からクレジットカードが使える)

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前レベル別に英語の授業を受け、午後は東大生のために用意された講義を聞いた。宿題はほとんど出なかった。午前も午後でもディスカッションに重きを置いた授業だった。

② 学習・研究面でのアドバイス

午前の授業では専門的な内容は扱わない。午後の授業では扱うが、preparatory seminar で単語やノートの取り方、大まかな内容を教えてくれるので、予備知識は必要ない。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

午前・午後どちらの授業の先生も聞き取りやすい英語を話してくれたが、講義をする教授の英語はほとんど聞き取れなかった。そのため、スライドを見て講義内容を理解した。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

用意された宿舎は一人部屋で、東大生の部屋は近くに固められていた。部屋には週に2、3回掃除が入り、タオルやシャンプーなどを替えてもらえる。朝食と夕食は、みんなで食堂に集まって食べた。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏でもとても寒く、長袖長ズボンで過ごすくらい気温だった。大学周辺は静かで人通りも少ないが、バス停やスーパーはところどころにあった。お金はクレジットカードがあれば、どこでも支払いができた。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はよく、特に問題はなかった。宿舎には24時間体制の職員がいたため安心して過ごせた。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃が24万、プログラム費用(授業料、教科書代、朝食・夕食、宿泊代込)が17万9千円、食費が3~4万、交通費が2万円くらいだった。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO から8万円の奨学金をもらった。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
放課後に social activity が行われ、バドミントンやスケートをしたり、休日には近場に旅行に行ったりした。また、プログラムの参加者同士でアフタヌーン・ティーに行ったり、宿舎で交流したりした。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
授業を受け持つ先生が非常に親切で、面談をしたり、宿題の添削をしたりしてくれた。宿舎には24時間体制の職員がいた。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
図書館は24時間開いており、飲食が可能だった。短期の留学生でも利用することができ、館内には PC やプリンターがあった。食堂はなく、小さな購買や学校近くのスーパー、テイクアウトの店でよく昼食を買った。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
午前のクラスには様々な国からの留学生(中国、韓国、ロシア、リビア、スペイン、タイ、スイス)がおり、日本ではないくらい国際的な環境に身を置けた。それらの留学生の考え方は多種多様で、かつ非常に積極的に意見を発表していた。そんな様子を見て、意見を述べる際には明確で論理的な理由が必要だ、ということを身をもって学んだ。また、クラスの先生からは、「日本人はシャイで、意見をはっきりいわない。自分から発言する姿勢を身に付けてほしい」、「日本人の英語には感情がこもっていない」など、わかっているようで実践できていないことをバシバシ言ってもらえたので、自分に足りないものは何かを知ることができた。

② 参加後の予定
院留学を目指したいと思う。必修の授業の関係から、学部のうち留学するには休学しなければならないし、自分の専門をまだ決めきれていないので。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
2週間英語漬けの日々を過ごすことは、いろいろな気づきを与えてくれます。このプログラムは他の参加者と助け合い、支え合いながら参加できるので、積極的に応募してもらいたいと思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
National Rail のウェブサイト(列車のチケットが予約できる)、「地球の歩き方」

③ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。